

令和 7 年度行政評価《事業評価調書》

事業名			中心市街地活性化推進経費			担当			建設部新幹線・まちづくり推進室		
事業概要		駅前第1ビルの再開発事業。現在は駅前第 1 ビルの地権者にて構成される「再開発準備組合」にて、事業実施の可否を検討中。									
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)			
R6決算		147	千円	2.0	人	11,478	千円	11,625	千円		
R7予算		212	千円	2.0	人	11,478	千円	11,690	千円		
目標		駅前第 1 ビルの再開発を実施する。									
実績・効果		・平成 2 9 年：「小樽駅前第 1 ビル周辺地区再開発準備組合」設立 ・準備組合の設立以降は、事業実施に向けた関係機関協議や準備組合からの補助金や入居施設に関する検討依頼に対応。 ・再開発を実施することで、耐震不足を解消するとともに、中心市街地の活性化が図られ、新たな賑わい空間の創出が見込まれる。									
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等					
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				再開発を実施することで、耐震不足を解消するとともに、中心市街地の活性化が図られ、新たな賑わい空間の創出が見込まれる。					
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				駅前第 1 ビルの耐震不足を解消する一つの手法である。					
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				人件費や建設費の高騰により、事業着手に至っておらず、事業が進んでいないが、事業実施により、中心市街地の活性化が図られ、新たな賑わい空間の創出が見込まれる。					
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				国庫補助がある。					
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続					
【今後の方向性の説明】											
再開発準備組合では、令和 7 年度中に新たな事業計画を作成し、令和 8 年 5 月の再開発準備組合総会にて事業実施の可否を判断する予定となっており、この判断を受けて、次の対応策の検討を進める。											

事業名 小樽駅前広場整備推進経費				担当 建設部新幹線・まちづくり推進室				
事業概要		小樽駅前広場の再整備事業。令和 4 年 5 月に策定した「JR小樽駅前広場再整備基本計画」に基づき再整備案の実現に向けた検討を行っている。						
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	38	千円	2.0	人	11,478	千円	11,516	千円
R7予算	212	千円	2.0	人	11,478	千円	11,690	千円
目標		小樽駅前広場の再整備を実施する。						
実績・効果		・令和 4 年：「JR小樽駅前広場再整備基本計画」策定、再整備案の決定 ・令和 5 年～：関係機関協議 ・駅前広場を再整備することで、課題となっている車両の輻輳や歩行者の乱横断が解消される。						
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			駅前広場を再整備することで、課題となっている車両の輻輳や歩行者の乱横断が解消される。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・再整備案の決定に関しては、国、道のほか、交通事業者、商工会議所、一般市民等を含めた検討委員会を設立し、決定している。			
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			小樽駅前広場の課題解決のために必要な整備であるものの、事業着手の条件である、駅前第 1 ビルの再開発が実施されず、事業着手に至っていない。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			国庫補助がある。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性					見直し			
【今後の方向性の説明】 「JR小樽駅前広場再整備基本計画」での再整備案は、現駅前第 1 ビルの敷地の一部を使用する関係上、同ビルの再開発事業の実施が前提の案となっているが、近年の人件費や建設費の高騰の影響で、再開発事業実施に至っておらず、駅前広場の再整備に着手出来ていない現状である。このことから、今後は駅前第 1 ビルの敷地に影響させない形での「暫定整備」の実現に向けて、検討を進めることとする。								

令和 7 年度行政評価《事業評価調書》

事業名			立地適正化計画推進経費			担当			建設部都市計画課		
事業概要		中心拠点と複数の地域拠点到都市機能が集約され、それらが交通ネットワークで結ばれた効率的なまちづくりを目指す「立地適正化計画」を策定することを目的とする。									
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)			
R6決算		3,060	千円	2.0	人	11,478	千円	14,538	千円		
R7予算		2,700	千円	1.0	人	5,739	千円	8,439	千円		
目標		人口減少や少子高齢化などの社会情勢に対応し、安全・安心で快適な暮らしを持続可能とする効率的なまちづくりに寄与する。									
実績・効果		・都市再生特別措置法に基づき、小樽市立地適正化計画を令和 7 年 3 月に策定、7 月に公表した。									
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等					
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				人口減少下においても持続可能で効率的なまちづくりの実現に必要である。					
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				居住機能や都市機能の立地、公共交通の充実等に関する包括的なマスタープランであるため、各分野の計画・施策との連携を図ることが可能である。					
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				小樽の将来（40 年先）を見据えた都市計画を進めるために、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方が有効である。					
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				まちづくりに係る各種事業実施において、国費を活用することができる。					
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続					
【今後の方向性の説明】											
・立地適正化計画の推進に当たっては、おおむね 5 年ごとに、計画に関連する施策等の実施状況について調査、分析及び評価を行い計画の進捗状況を精査する。											

事業名		用途地域等見直し推進事業費		担当		建設部都市計画課			
事業概要		「都市計画マスタープラン」及び「立地適正化計画」における目指すべき土地利用の姿を実現するため、用途地域等をはじめとする地域地区等の見直しにより土地利用の規制と誘導を図る。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		千円		人		千円		0 千円	
R7予算		8,085 千円		3.0 人		17,217 千円		25,302 千円	
目標		用途地域等の見直しにより、社会情勢の変化に対応した土地利用が図られる。							
実績・効果		令和 7 年度において、土地利用等の分析を行い、今後予定する用途地域等の見直しに係る基本的な考え方を整理する。							
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			都市計画マスタープランや立地適正化計画に基づく効率的なまちづくりの実現に必要な計画である。				
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			社会情勢の変化に対応した土地利用を図るため、見直しの検討が必要である。				
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			持続可能で効率的なまちづくりを進めるためには、有効な見直しである。				
	効率性	☐ 高い ☐ どちらかという高い ☒ どちらかという低い ☐ 低い			補助金等がないことから効率的な事業ではないが、都市計画として必要な見直しである。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続				
【今後の方向性の説明】									
・効率的な土地利用が期待されることから、令和 8 年度・9 年度で見直しを進める。									

令和 7 年度行政評価《事業評価調書》

事業名		北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会関係経費		担当		建設部新幹線・まちづくり推進室			
事業概要		北海道新幹線新小樽（仮称）駅の開業を見据え、その効果を最大限に活用した魅力あるまちづくりに向けたアクションプラン等の取組を行う官民連携協議会の関係経費。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		199	千円	0.5	人	2,870	千円	3,069	千円
R7予算		300	千円	0.5	人	2,870	千円	3,170	千円
目標		官民一体となって新幹線の開業効果を最大限に活用した魅力あるまちづくりを実現する。							
実績・効果		協議会、専門部会、戦略会議を開催した。主な実績は以下のとおり。 ・取組計画の策定（R3）アクションプラン、（R5）新駅利用促進戦略 ・取組計画の実行（R4～R6）新駅周辺施設整備（駅前広場・駐車場・附帯施設等）に向けた検討、駅舎デザインの検討・決定、観光型MaaSの研究・検討等							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・市長公約に該当する事業である。 ・事業を廃止することによる政策推進への影響が大きい。			
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・目標達成に向けて、持続性のある実施体制が整っている。			
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・上位目的達成に向けた貢献度が高い。			
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・最小限の体制（予算・人工）で、効率的に事業を行っている。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】									
新幹線の開業延期により、協議会においてアクションプラン等の取組スケジュールと取組内容を見直すこととしている。取組の多くを延期（先送り）せざるを得ない状況であるが、新駅周辺の環境整備や開業遅れに伴う市民の関心の低下を防ぐための取組（各種PRなど）は、引き続き実施していく必要がある。									

事業名		新小樽（仮称）駅周辺駐車場等整備関係事業費		担当		建設部新幹線・まちづくり推進室			
事業概要		北海道新幹線新小樽（仮称）駅の交通結節点機能を確保するとともに周辺のまちづくりを進めることを目的として、市が主体となって整備する施設（駐車場、附帯施設等）に係る調査、設計、用地買収などを行う事業。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		23,364	千円	2.0	人	11,478	千円	34,842	千円
R7予算		100,332	千円	2.0	人	11,478	千円	111,810	千円
目標		新小樽（仮称）駅の交通結節点機能を確保し、駅利用者等の利便性向上を図る。							
実績・効果		主な実績は以下のとおり。 (R4)勝納川右岸管理道路外測量調査ほか (R5)附帯施設及び立体駐車場の基本設計、勝納川右岸管理道路外実施設計ほか (R6)小樽市天神地区交通戦略の策定、平面駐車場整備のための地質調査ほか							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・市長公約に該当する事業である。 ・事業を廃止することによる政策推進への影響が大きい。			
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・明確な目標が設定されている。			
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・上位目的達成に向けた貢献度が高い。			
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・本市以外（ＪＲＴＴ等）で実施する設計業務等と足並みをそろえることで、無駄なく効率的に進めている。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】									
新幹線の開業延期により本工事の時期は後ろ倒しになるが、令和８年度は立体駐車場整備に伴い支障となる物件の移転補償及び用地補償、北海道で行う付替え市道整備の建設費の負担や附帯施設の整備に当たり必要となるアンカー施工のＪＲＴＴへの委託を進めていく。									